





## (1) インタビュー (初級)

目的・使う文型  
もくてき つか ぶんげい

「～ができる」(または可能形)の練習  
かのうけい れんしゅう

人数  
にんずう

何人でもいい。(大人数でもできる。)  
なんにん おおにんずう

手順  
てじゆん

①学習者と日本人の割合が同じになるように二つのグループに分ける。

②「テニスができますか」「車が運転できますか」などと聞いて、話したい雰囲気を盛り上げてから、シートを配って活動の説明をする。

③一方のグループ

の人が、もう一

方のグループの

人とペアになっ

てお互いに質問

して結果をシー

トに書く。人数

や時間の制限をつけてゲームにするとより楽しくなる。

④何人かの学習者や日本人参加者がインタビューの結果を報告する。

できること			
なまえ	○	○	×
やまだ			

○...できます ×...できません

「自動車販売業者」「旅行者」などになる。客に見せるパンフレットなどを用意させてもよい。

②日本人参加者は客になる。

③学習者は客の希望に合わせて商品をすすめたり、プランを提示して、買わせようとする。客はすすめられて、気に入ったらその商品を買う。気に入らなかったり、その気になれなかったら断ってもよい。

④活動の後で、学習者はクラスに結果を報告し、日本人参加者は買った理由や買わなかった理由を言う。

この活動で大切なことは学習者も日本人参加者も「その気」になることです。日本人参加者には教師がロールカードを書いて役割をあたえてもいいですが、実際の家族構成や年齢、状況などから自分で決めてもらうと、その役になりやすいかもしれません。

こうした活動では、日本人参加者の役割がとても大切です。深澤さんはいつも次のようなことを日本人参加者に注意してほしいと言っているそうです。



- ・何よりも楽しそうに話すこと
- ・教師になって、日本語を教えようとしないこと
- ・おかげにせずに自然に話すこと
- ・わからなかったら、まずもう一回言って、それでもわからなかったら言い方を変えてみる。わからないからと言ってすぐに話題を変えないこと

皆さんの日本語のクラスが、学習者にとっても、日本人参加者にとっても、楽しい交流の場になることを期待しています。

## (2) ロールプレイ (中・上級用)

目的・使う文型  
もくてき つか ぶんげい

相手を説得する練習。それまで学習したいいろいろな文型を使う。「～はいかがですか」「～がいいと思います」など。

人数  
にんずう

15人程度、日本人は5、6人いるといいが、少なくともよい。

手順  
てじゆん

①学習者は2、3人ずつグループを作り、「不動産屋」

### 参考文献

1. ニュースプニー、J. V. (1995) 『新しい日本語教育のために』(第7章ティーチング・アシスタントの活用) 大修館書店
2. 岡部真理子 (1997) 「ビジターセッションのすすめ」『月刊日本語』7月号アルク

このコーナーの担当: 北村武士、八田直美 (日本語国際センター専任講師)

読者の皆さんのアイデア、成功例、失敗談などをお寄せください。

どくしゃ みな せいこうれい しっぱいたん よ